

優秀賞

## はじめてのちゅうせん

鹿児島県 鹿児島市立広木小学校三年 永田 比呂

「行きたい。」

ぼくは、お母さんに言いました。それは、ぼくと弟が、二人だけでバスにのっておじいちゃんの家に行く、ぼくのはじめてのちゅうせんです。行く日は、おじいちゃんのお誕生日の日です。その日までバスのり方やのる時こくを覚えてもらいました。

ちゅうせんの日、ぼくは弟と手をつないで家を出ました。まずはお店でプレゼントを買いました。レジで弟が、

「おじいちゃんのプレゼントを買うの。」

と店いんさんに言いました。店いんさんは、

「そうなの。すごいね。」

と言いました。ぼくはお金をはらい、やったあとと思いましたが、でも、バスでいに行く中にプレゼントをわすれていることに気がつきました。あわててもどると、店いんさんがまっけてくれました。プレ

ゼントがあつてよかつたと思ひました。

バスでいには、四十分ぐらい早くつきました。弟が、すわつていたおばあちゃんに、

「おじいちゃんにプレゼントを持って行くの。」

と言ひました。おばあちゃんは、

「そうなの。二人だけで行くの。すごいね。」

と言ひました。ぼくは、弟はよく話しかけるなあと思ひました。

「あつ。バスが来た。」

前からのろうとしたけど、運てん手さんが、後ろからのると教えてくれました。次は、きつぷのとり方が分からなくてこまつていと、

「おりる時かい決するから大じょうぶだよ。」

と言ひれました。一つのいすに弟と二人ですわりました。となりのおじいちゃんに、

「どこでおりるの。何丁目。」

と聞かれたけど答えられませんでした。ぼくはおりる場所のけ色は分かつていました。だから、前のまどの外を時どき見ていました。でも、その場所になかなかつかなくて、少し心ばいになりました。となりのおじいちゃんが、

「ばいばい。氣をつけてね。」

とおりて行きました。少したつてやつとおりる場所が見えました。ぼくは弟に、

「こう、じゅんびして。」

と言つて運てんせきに行きました。きつぷをとつていなくつたのできどきしました。

「小学生。ようち園かな。」

としつ問しながら、運てん手さんがお金のはらい方を教えてくれました。そして、やつとお金をはらつておりることができました。バスでいであつていたおばあちゃんが、弟をぎゅつとしながら、

「二人できたのすごいね。」

と言ひました。ぼくはほつとしました。

「そうかあ。二人で来たのか。ありがとう。」

おじいちゃんもよろこんでくれました。色々あつたけど、たくさんの人にたすけてもらつて、ぼくのちゅうせんは、大せいこうでした。

